

行つて来るね！おじいちゃん

栃木県

小山市立豊田南小学校六年

黒川 栄美

「行つて来るね！」

私は登校前、毎朝おじいちゃんの部屋に顔を出します。すると、おじいちゃんも私に、

「はいよ！行つてらっしゃい。気をつけるんだよ。」

と、いつもやさしく返事をしてくれます。何年もそのあいさつが続いているので、同じ言葉が返ってくることを、ちゃんと私は知っています。けれど、その言葉を聞くと不思議とほっとし、元気がでます。

けれど今、そのおじいちゃんが、病気をわずらい入院しています。数年前から、入院をくりかえすようになってしまいました。私にとって、おじいちゃんとの朝のあいさつは、ごくごく自然のことだったので、今でもおじいちゃんの部屋をのぞいてしまうことがあります。とつてもさびしいです。

おじいちゃんは、すごく優しくして私は一度も怒られた記憶がありません。思い出すことといえば、動物園や水族館に連れて行つてもらったこと、一緒に庭でシャボン玉や花火で遊んでくれたことなどです。七夕の時は、おじいちゃんが、大きな笹をとつてきてくれて、家族みんなで短冊や、かざりつけをしたこともあります。私はそんなおじいちゃんに、普段はなかなか伝えられないけれど、ありがとうって思っています。

今入院中のおじいちゃんは、大きな手術を何度ものりこえ、がんばっています。だけど、思うように話せません。歩くのも

困難です。だから、私も時間をつくつて、おじいちゃんがいる病院へ会いに行きます。すると、おじいちゃんは、私の顔を見て笑顔になってくれます。私も弟も、おじいちゃんにもっと喜んでもらおうと、私は学校で教えてもらったけん玉の技を見せたり、車いすをおして散歩に出かけたりします。弟も、お手玉遊びや、おじいちゃんと指すもうをします。そんな時おじいちゃんは、目をほそめて喜んでくれるのでうれしくなります。

でもお別れの時間がくると、元気な時は一度も泣き顔を見せなかったおじいちゃんが、顔がくしゃくしゃになるほど、なみだをこぼします。そんなおじいちゃんを見ると、私もつらくなり、「またね。」の言葉もつまつてしまいます。なんて言ったらいいのだろう。言葉をさがすけれど見つかりません。そんな時は、おじいちゃんの手をそと、にぎります。すると、おじいちゃんも、ゆつくりだけど、一生けん命私の手をにぎってくれます。言葉はなくても、その手のぬくもりでおたがいの気持ち分かる気がします。家族ついでいながら思っています。

「家族」そう考えると、祖父・母・父・母・弟、私にとつてみんなが、とつても大切な存在だなと改めて思いました。これからも、家族とのきずなを大事にしていきたいです。そして家族のみんなに伝えたいです。いつもありがとう。それから、おじいちゃん一日も早くよくなつてね。